

一つの判断が生死を分ける

福祉施設の災害時避難と介護現場のBCP

東日本大震災の福島では、原子力発電所の影響で多くの方が避難を余儀なくされ、施設の高齢者は死のリスクを負いながら避難しました。次の災害に備え、東日本大震災の教訓と基本的な知識を学びます。また、第2部以降、介護施設の現状とBCP(事業継続計画)についてお伝えします。

■日程：平成27年**5月26日(火)**
13:30～16:30(受付13:00)

■会場：**あざれあ4階 第1研修室**
静岡駅から徒歩9分。一般の方は施設の駐車場をご利用になれません、公共交通機関をご利用下さい。

■参加費：**1,500円**／お一人様

■定員：**80名**(先着順・定員になり次第受付終了)

■対象者：静岡県内の福祉施設の職員
施設に関係する委託業者等

【第一部】13:30～15:00
野村周平さん(インペリアルカレッジロンドン)
東日本大震災時の高齢者の避難と海外の知見
【第二部】15:10～15:30
鈴木崇さん(ふじのくに防災フェロー)
静岡県の介護施設の災害対策の現状
【第三部】15:30～16:10
遠藤俊一さん(介護老人保健施設こみに)
BCP(事業継続計画)の基礎と実務
【第四部】16:10～16:30
その他情報提供



高齢者にとって避難は命に関わる冒険です。福島原発事故後、多くの高齢者が遠方への避難を余儀なくされ、結果死亡率は例年の2-3倍に跳ね上がりました。将来、原発事故に限らず避難が必要とされる事態は起こり得ます。今後の災害対策を考える上で、避難に伴う健康被害を回避・軽減するにはどうすればよいか、被災された浜通り地域の施設スタッフとのインタビューで得た教訓や研究結果、海外の知見も交えて、皆様と議論出来ればと思います。

【第一部講師略歴】 野村周平さん

インペリアル・カレッジ・ロンドン公衆衛生大学院博士課程。平成23年東京大学薬学部卒業。同年、同大学大学院国際保健政策分野の修士課程に進学し、福島浜通り地域の災害復興支援に従事。国会事故調の協力調査員、及び国連開発計画(UNDP)タジキスタン共和国事務所の災害リスク事業でのインターンを経て、平成25年秋より現大学院へ留学。高齢者の避難リスク、及び災害の中長期健康影響に関する研究を行っている。昨秋、世界保健機関(WHO)本部の災害リスク・人道支援部門政策実施評価局におけるインターンを修了。

主催・お問合せ：**そなえざあしぞ〜か**

(担当：渡嘉敷 [TEL: 090-7237-0241](tel:090-7237-0241) (toka@sonaeza.com))

協賛：株式会社アドテクニカ

後援：静岡県社会福祉協議会、静岡市社会福祉協議会、医療法人社団博慈会、社会福祉法人静岡厚生事業協会

FAX申込書(締切5月22日)

そなえざあしぞ〜か 宛 **アドテクニカ優待**

FAX : (054)333-5466

氏名(全員分)			
所属法人		電話番号	
メールアドレス			